

第 59 回東医体千葉大学医学部運営本部より

第 63 回(2020 年度)東医体の開催方法について

1. はじめに
2. 第 63 回(2020 年)東医体ではどのような問題が発生するのか
3. どのような対策をとる必要があるのか
4. なぜ今から話し合いを行う必要があるのか
5. アンケートについて



begin.continue
千葉大学大学院医学研究院・医学部

第 59 回東日本医科学学生総合体育大会
千葉大学医学部運営本部
〒260-8670
千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1
TEL:043-226-2837
FAX:043-226-2837

1. はじめに

皆様もご存知の通り、2020 年には東京にてオリンピック競技大会およびパラリンピック競技大会が開催される予定です。各競技大会の日程は下記のようになっています。

(1) オリンピック競技大会開催概要

正式名称: 第 32 回オリンピック競技大会

開催期間: 2020 年 7 月 24 日 (金)～8 月 9 日 (日)

競技数: 28 競技

(2) パラリンピック競技大会開催概要

正式名称: 第 16 回パラリンピック競技大会

開催期間: 2020 年 8 月 25 日 (火)～9 月 6 日 (日)

競技数: 22 競技

また、東医体の開催期間は以下のようになっております。

第 63 回東日本医科学生総合体育大会開催概要

開催期間: 8 月 1 日 (土)～8 月 15 日 (土)

競技数: 21 競技

上記の通り、東京オリンピックは第 63 回東医体の期間と重なっています。このため、2020 年の東医体開催においては多くの問題が発生することが予想されており、運営委員会ではこの問題に対応するため、2020 年に向けて様々な対策を考案中です。(詳細については後述致します。)

つきましては、対策案に競技者の意見を反映させるためにも、部活動の主将である皆様にアンケートへ回答をしていただきたく思います。アンケートはホームページからもアクセスできるようになっております。また、本資料の最後にも URL、二次元バーコードをご用意いたしております。

第 63 回東医体において活躍する後輩、および運営を行う後輩の方向性を左右する重要なアンケートとなっております。部活動、特に 1、2 年生を中心に本資料を基に話し合いを行ったうえでご回答いただけると幸いです。

2. 第 63 回(2020 年)東医体ではどのような問題が発生するのか？

オリンピックの開催に伴い、第 63 回東医体では様々な問題が発生すると予想されています。

1) 競技会場確保の困難

オリンピックの開催に伴い、競技会場の確保が困難になる可能性があります。理由としては以下の様なものが考えられています。

・オリンピックの事前キャンプにかぶる

事前キャンプとは、オリンピック大会の前に各国が行う調整のための合宿のことです。北京オリンピックの際は北京と日本が近いことから 1 都 1 道 20 県で事前キャンプが行われました。東

京オリンピックの際には全国的に事前キャンプが行われることが予想されています。

事前キャンプを行う国・競技の中には東医体と同程度の施設を利用するものも多いと考えられています。(実際、第 59 回東医体剣道競技で使用する体育館が事前キャンプの候補地として誘致対象となっています。)そのため、8 月の前半に会場を確保しようとした場合事前キャンプとのバッティングが予想されます。

- ・競合する他の体育大会と大会会場の競り合いになる。

東医体と同時期に開催される競技大会(インターハイ、インターミドルその他)もまた、オリンピックの影響を受け大会会場が不足している可能性が高いと考えられます。この場合、東医体と競合してしまう可能性があります。

- ・会場価格が高騰する

オリンピックが実施されるため一般の利用者が利用できる体育館は少なくなることが予想されます。これに伴い各体育館の利用価格の上昇が考えられます。

2) 宿泊施設確保の困難

オリンピックに伴い、多くの外国人が訪日すると考えられています。この影響はオリンピック開催期間中のみならずその前後にも及ぶ、と考えられています。これは訪日外国人がオリンピック観戦以外にも観光を行う可能性があるためです。

ニュースにてご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、現在東京近郊では宿泊施設が圧倒的に不足しており、東京から2時間の圏内のホテル(新幹線利用も含む)は、全て埋まるとの予想もあります。このため東医体のように団体で宿泊施設を確保することは困難になる可能性があります。

また、仮に確保することが出来たとしても宿泊施設の価格は大幅に上昇していることが考えられます。

3) 参加者・参加校の不足

上記のような理由から、2020 年の東医体の開催には多くの困難があると考えられています。これにより参加者や参加校数が不足してしまった場合、東医体が大会として成り立たなくなる可能性もあります。

4) 財政の逼迫

会場、宿泊施設の価格が高騰した場合、支出が大幅に増加する可能性があります。また、参加者や参加校数が減少した場合には収入が大幅に減少する可能性があります。どちらの場合にも予算が不足してしまう可能性が考えられます。

3. どのような対策を取る必要があるのか

これまで述べてきたような問題に因應するため、運営委員会では以下のような対応策を考えています。各項目についてアンケートの記入もお願いいたします。(後述)

1) 開催期間の変更

現在、東医体は8月1日～15日に行うことが決められています。この開催期間をオリンピック期間とずらすことによって東医体を開催しやすくしようという案です。現在、

・夏期延長開催 ・秋季、冬季開催 ・春季開催

の3つの案が考えられています。必ずしもこの3つの案に絞らなくてはならない訳ではなく、幾つかの案を併用することも可能と考えています。

○夏期延長開催

夏期延長開催とは、通常通りの8月1日～8月15日まで行われている東医体をその後も8月下旬～9月上旬まで開催するという案です。

～メリット～

・現在の東医体とほぼ変わらず、夏休みを利用した運営、参加が行えます。

～デメリット～

・オリンピックの影響を強く受ける可能性があります。

・夏休み期間は大学によって異なり、必ずしも今まで通り全学年が参加できるとは限りません。

○秋季、冬季開催

秋季、冬季開催とは、9月～2月までの連休、週末を利用することで東医体を開催するという案です。

～メリット～

・オリンピックの影響を受けにくいと考えられます。

・競技によっては日程を分割して開催を行う必要がありますが、その場合競技会場を確保しやすくなります。

～デメリット～

・日程を分割して開催する必要がある場合、予選リーグ制度など、今までにない運営方法が必要になる可能性もあります。

・競技によっては秋リーグなどにかぶってしまう可能性があります。

・降雪など天候の影響で実施できない競技もあります。

・日程によっては6年生の国家試験が近く参加できない可能性もあります。

○春季開催

春季開催とは、3月の春休みを利用して東医体を開催するという案です。

～メリット～

- ・オリンピックの影響を受けにくいと考えられます。
- ・秋季、冬季開催と違いまとまった日程を確保することができます。
- ・6年生は国家試験後に競技に参加することが出来ます。

～デメリット～

- ・競技によっては春季リーグなどにかぶってしまう可能性があります。
- ・学年や年度の変わり目で多少の混乱が予想されます。
- ・春休み期間は大学によって異なり、必ずしも全員が参加できるわけではありません。

2) 開催地域の変更

例年東医体は、会場確保の観点から主管校の周辺地域で開催されることが多くなっています。第63回東医体の主管校は、

東京医科歯科大学医学部 聖マリアンナ医科大学 筑波大学医学群 昭和大学医学部の、関東周辺の4校であり、会場確保は困難である可能性があります。そのため、開催地域を大幅に変更することで会場を確保しやすくなると考えました。運営委員会では現在以下のような案を考えています。

○東日本全体を視野に入れた会場確保

主管校近隣のみならず、北海道を含めた東日本全体で会場確保を行います。

○西日本も視野に入れた会場確保

オリンピックの影響を受けにくいと考えられる西日本を視野に入れて会場確保を行います。ただし、移動にかかる費用が掛かってしまうことなどのデメリットもあります。

3) 競技の中止条件

競技開催期間の変更、開催地域の変更などを行ったとしても、競技開催が厳しい場合、あるいは、競技を開催することが出来ても参加者が集まらないケースが考えられます。このように一定の条件を満たすことが出来なかった場合、運営委員会より競技の中止勧告を行う可能性があります。競技の特性(試合成立条件、平常時の参加校数など)によって中止条件は異なりますが、以下のような条件を考えています。

- ・参加校数
- ・参加者数
- ・極度の財政逼迫

このような条件は競技によって異なると考えられます。今後各競技実行委員会と話し合いを行い、中止条件について考えていかななくてはなりません。

4.なぜ今から話し合いを行う必要があるのか

「2020年なんてまだまだ先ではないか、なぜ今対策を考える必要があるのか」とお考えかもしれませんが、少し複雑な話になりますがお読みください。

東医体の運営は2年前から準備が始まります。主将会議を開催し、競技の運営をする主管校は、運営する大会の2回前には決まっています。(今年は第59回東医体ですが、皆さんが主将会議で第61回の主管校を決定したのはまだ記憶に新しいかと思います。)また、全体の統括をする東医体運営委員会も同時期に決定します。(現在第61回東医体の運営委員会が選定されています。)従って2020年に開催される第63回大会を開催する大学が決まるより前に、すなわち2年後の第61回東医体よりも前に、第63回東医体の開催の方針を決める必要があるのです。

何よりも重要な点は、

・第63回東医体に参加する後輩、運営する後輩の運命を決めるのは私達である

ということです。そのことを念頭に置いた上で、部活動内でよく話し合った上でご回答いただけると幸いです。

5.アンケートについて

今回このような長い資料を読んでいただき本当にありがとうございました。アンケートは第63回東医体の方向性を決定づける非常に重要なものとなっております。必ずご回答くださいますようお願い致します。また今回のアンケートの末尾に、保険制度についての簡単なアンケートもございます。回答は個人ではなく部活動単位で1回お願いいたします。回答は以下のURLよりお願い致します。(回答期間は7月15日～8月31日を予定しています。)

<http://www.smaster.jp/Sheet.aspx?SheetID=112330>



アンケートの結果は次回の主将会議にて運営委員会より報告させていただきます。

ご不明な点、ご意見などございましたら下記連絡先までご連絡ください。

第59回東医体千葉大学医学部運営本部

副運営本部長 川西朗弥

TEL:080-1209-3921

MAIL:akiyakh07@gmail.com

PCMAIL:59th.chiba.honbu+hukuhonbutyo@gmail.com